

2026.1 津久井幼稚園 2013年度卒業生

杉崎万泰さん

高校3年

全国高校サッカー選手権でゴールを決め、ベスト8進出!

[MOM5384]日大藤沢MF杉崎万泰(3年)_誰よりも「替えの利かない」黒子の決勝弾! インハイ王者との大一番へ「めっちゃめっちゃ楽しみ」



決勝点を決めたMF杉崎万泰(3年、写真中央)

[高校サッカー・マン・オブ・ザ・マッチ]

[1.2 選手権3回戦 聖和学園高 1-2 日大藤沢高 U等々力]

どの試合も攻守に絶大な貢献度を誇り、経験豊富な指揮官をして「黒子だけど一番替えの利かない選手」と言わしめるチームの心臓が、決勝点まで奪う大活躍で日大藤沢高(神奈川)を11年ぶりの全国選手権ベスト8に導いた。

1-1で迎えた後半14分だった。日大藤沢は左からのCKがゴール前に入ると、ゴール前の混戦で両チームが競り合うなか、こぼれ球に詰めたMF杉崎万泰(3年=横浜FM Jrユース追浜)が右足一閃。「本当にあまり覚えていないけど、気持ちで押し込んだようなシュートでした」。無我夢中でシュートをねじ込み、貴重な勝ち越しゴールを奪った。

もともとは守備を強みとするボランチだが、いまや攻守に高水準の能力を兼ね備えるオールラウンドプレイヤー。得点力強化にも取り組み、結果につなげてみせた。

「自分の武器である守備は任せられていることなので、そこはやりつつ、常にアップダウンのところまで攻撃にも関わっていこうと1年間意識してやっている。セットプレーもその一つで、高さもないわけではない(登録178cm)のでヘディングの部分であったり、推進力の部分で攻撃でも貢献しようとしてきた。それがゴールにつながったと思う。点は欲しいし、県予選でもなかなかゴールは奪えていなくて今大会では決めたいという思いがあったので良かった」(杉崎)

日大藤沢のボランチではMF中村龍剛(2年)やMF野口慶人(3年)が攻撃に強みを持つ選手として熾烈なポジション争いを繰り広げているが、杉崎の存在は今のところ不動に思える。佐藤輝勝監督も「見えない黒子だけど一番替えの利かない選手。体を張ったり、見えないところでハードワークしたり、ここにもいるのかという運動量がある。目立たないかもしれないけど、外せない素晴らしい選手です」と手放しで称賛を口にする。

その信頼の背景にはもちろん、杉崎のたゆまぬ努力があった。

「サッカーにおいてボールを漏らさない、球際の強度やディテールの部分が大切になると思うので、そこを誰よりもやることと、誰よりも泥臭い仕事をするところが本当に大事になってくるので、そこをやり続けた結果だと思う」(杉崎)

得意の守備だけでなく、攻撃のレベルアップにも長い間取り組んでおり、「1年生、2年生の時はなかなか攻撃の部分でミスが多い選手で、あまり試合に絡めないことが多くて、守備の部分で特徴を出しながら攻撃にも関わっていかないとこのチームでは出られないな」というのを思っていた。推進力の部分だったり、常にスペースを見つけて走り込むとか、そういうところは意識している」と向上を実感。その積み重ねがピッチ上での大車輪のパフォーマンスにつながっているようだ。

またそんな杉崎だが、実はピッチ上でのパフォーマンスだけでなく、勉強も優秀な文武両道プレイヤー。今大会後には一般受験での進学を目指し、大学入学共通テストを受ける予定となっており、サッカーと学業をハイレベルで両立させる濃密な年末年始を過ごしている。

そうして迎える4日の準々決勝の相手はインハイ王者の神村学園。「夏の王者ということでこれまで以上に厳しいゲームになると思うし、そこで相手が強いからといって自分たちのサッカーを見失う必要はない。最後の大会なので自分たちを信じてやるしかない」。そう意気込む背番号6は「本当にめっちゃめっちゃ楽しみ。自分のストロングの部分があれば通用するかもそうだし、チームとしての完成度も神村さんは素晴らしいものがあるので、チームとしての総合力の競争にもなると思う。どれだけ通用するかということと、あとは勝つことしか考えていない」と心を躍らせ、一大決戦に向かう。



後半、勝ち越しのゴールを決める日大藤沢・杉崎万泰(撮影・蔵賢斗) (株式会社 星経デジタル)

